2020年5月12日（火）Zoom 講義概要

初等外国語教育法1組（13時50分～）

初等外国語教育法２組（14時40分～）

第2章　関連分野からみる外国語教育の意義と方向性

1節　母語習得と第二言語習得

１．母語習得研究

①行動主義的アプローチ

☞母語習得と第二言語習得のプロセスは同じだろうか？

☞母語はどのように習得されてきたのか？

☞刺激➡反応➡強化で母語は習得されたのなら，そのように第二言語（外国語）も学ぶべき？

②生得主義的アプローチ　人間の脳には生まれながらに言語を獲得できる装置がある。それがLAD. 第二言語も同じプロセスで学んだほうがよいのか？

☞「母語の干渉」　これはいったい何？

③相互交渉主義的アプローチ

☞言語環境において周囲の大人たちとの交流を通して母語を習得していく？

☞テレビだけを見て子供は言語を学ぶか？聞いただけで学べるか？

☞modified input, caretaker speech, foreigner talk, teacher talk これはみんな同じ意味？

④用法基盤モデル

⑤その他の幼児の言語習得の特徴

1）具体的な場面で学ぶ　Here and now の原則

2）文法項目を学ぶには順序がある？

3）中間言語とは何か？過剰一般化とは何か

　　なぜ幼児は　I swimmed. というのか？　大人の言語をまねて子供は言語を学んでいくと仮定すると，大人は決してI swimmed. とは言っていない。つまり，子どもは大人の言語のいつも真似をしているとうことではないのではないか？

日本の中学生もI swimmed. と言う場合がある。なぜこんな間違いをするのだろうか？

２．第二言語習得研究

①インプット仮説

②アウトプット仮説

③インタラクション仮説

④社会文化理論

⑤その他の第二言語習得の特徴

１）インプット➡インテイク➡アウトプット

２）意味中心の授業から文法へフォーカスする。文法から意味へ行くのではない。

３）語彙などの覚えかた

４）チャンクから分析的な学習へ

　☞How are you? という言葉に小学生はほぼ全員が反応することができる。

　　彼らの頭の中で，この表現はHow/are/you の三つの単語からできていることに気付いているのはどのぐらいいるのだろうか？

　☞Thank you. とは言えても，これがThank とyou の二つの語からできていることを彼らは知っているだろうか？

　　Global errorと Local error

2　神経言語学と臨界期説

１．脳の働き

☞右脳と左脳の働き

２．臨界期仮説

☞アマラとカマラの話を知っていますか？　ジャングルの中で狼に育てられた幼児たちです。その後，彼らは言語を学ぶことができたでしょうか？

☞アメリカには13才ごろまで隔離して育てられたジニーの例があります。隔離されて育ったジニーはその後言語を学ぶことができたでしょうか？

☞みなさんの日本語は，「訛り」がありますか？　この「訛り」は，いつごろまで，その土地に住んだ場合に起こるのでしょうか？　例えば12～13歳ごろまでに関西で育った人が，その後東京へ移住した場合，その人は関西弁から東京弁になるのでしょうか？それとも関西弁のままでしょうか？あるいは東京弁になるのでしょうか？移住した時期（年齢）は重要でしょうか？

☞BICSとは何？　CALPとは何？

3節　発達心理学と学習者要因

１．発達心理学

☞こどもはどのように物事を認識するのでしょうか？

☞こどもの発達に合わせた指導法を考える必要がありますね。中学生に教えるように，小学生に教えてはいけないということです。

☞では，どのように教えると良いのでしょうか？

２．学習者要因

☞植物は同じような環境で同じような水や肥料を与えられると，同じように成長します。人間は同じクラスで同じ指導法で学んでも同じように理解していくとは限りません。それはなぜでしょうか？

4節　コミュニケーション能力

☞文法能力，談話能力，社会言語学的能力，方略的能力とは何か？

5節　国際教育，国際理解教育，および異文化間コミュニケーション

☞日本の国際理解教育はどのように教えられているのでしょうか？学習指導要領では，どのように国際理解教育を扱っているのでしょうか？